

10月号

School Aid Japan Cambodia

スクール・エイド・ジャパン・カンボジア



Dream通信

2009. 10. No.19

子どもたちのお盆里帰りと新学期 ～全員が10月から次学年に進級しました～



これから出発です。職員も同乗します。



車の中でも待ちきれない様子の子どもたち。



水上の村に住む養い親に港で合流しました。

9月は、カンボジアではお盆と新学期のシーズンです。今回のドリーム通信では、「夢追う子どもたちの家」のお盆里帰りと新学期の様子をお伝えします。

①お盆里帰り

カンボジアでは、毎年9月にお盆があります。多くの人々がこの時期はお寺にお参りに行きますが、一般には亡くなった人の魂が家ではなくお寺に戻ってくると信じられており、また必ずしも亡くなった自分のご先祖様に会いにお寺に行くわけではないなど、日本と少し違うところもあります。しかし日本と同じく家族でお盆の時期を一緒に過ごしお寺に行くことはカンボジアでも重要な行事です。今年のお盆は18日から20日の3日間でした。子どもたちはお盆とお正月の年2回、養い親のもとに里帰りをしており、今回で3回目の里帰りになります。園では子どもたちに1週間の休みを与えて、15日と16日の2日間に分けて養い親のもとまで車で送り、迎えは23日と24日の2日間に行いました。お盆の間は、みんなでお寺に行ったり、ごちそうが出たりと楽しいことがたくさんあるので、里帰りが近付くと子どもたちもうきうきとしてきます。車酔いするので車が嫌いな子ども、この時ばかりは楽しそうでした。出発前日にはミーティングを行いました。前回の里帰りでは、洋服やサンダル、下着や文房具など忘れ物が多かったことを注意し、また里帰り中は養い親の仕事を手伝い、園での生活の様子を養い親の家族に話すことなどを伝えました。里帰りを終えて戻ってきた子どもたちが休み中のことについて書いた日記を見ると、きちんと仕事のお手伝いをしているようでした。水汲みや畑仕事を手伝いに行ったり、おばあさんと一緒にお寺にお供えするご飯を作るのを手伝ったりしていたようです。みんながしっかりと手伝いをしてきたことを知り、安心しました。また、地元の友達と遊んだり、養い親の家族と話したり、お寺に行ったりと、普段は園でなかなかできないことをして楽しんだ様子でした。



初めて自転車に乗り、表情も真剣です。



自転車に乗って初登校の新4年生。



中学校で踊りを披露する子どもたち。

②新学期が始まりました。

お盆の里帰りが終われば、夏休みも終わりに近づき、新学期の準備が始まります。カンボジアでは9月の下旬頃から子どもたちは学校に登校して、学校の清掃活動などを行います。本格的に授業が始まるのは10月からになります。園の子どもたちの進級に伴い新しい教科書の配布や、きつくなった制服の交換など準備に忙しい日々が続きました。中学生は1年で背が10センチ以上伸びている子もいて、成長期だとあらためて実感しました。また4年生からは学校に登校する際に自転車通学をしています。新しく4年生になる子どもの中には、園に来て初めて自転車に乗る子もいて、時間を見つけては友だちと一緒に一生懸命自転車の練習をしていました。最初は苦労した子どもたちも次第に上手になり、今では全員が自転車で通学できるようになりました。

そして10月1日に各学校で一斉に始業式が行われました。中学3年生の通うシハヌーク中学校では、毎年始業式に伝統舞踊を披露するのが恒例となっています。園の子どもたちは毎週日曜日に伝統舞踊の稽古をしていますが、今年の始業式に踊り手として招待されました。伝統舞踊を指導している踊りの先生が、他の場所で教えている生徒さんと合同で踊りを披露することになり、高校生のお兄さんやお姉さんと一緒に本番前に3日間踊りの稽古をしました。当日は中学校の生徒や先生、地区長や村長など1,000人以上が見守る中、堂々と踊りを披露することができました。全部で5種類の踊りが終わると見ていた人たちから大きな拍手が起こりました。いつもは厳しく指導している踊りの先生も、この時ばかりは子どもたちに良く頑張ったと声をかけていました。子どもたちが園の外で踊りを披露する機会はあまりなかったため、とても良い経験だったと思っています。子どもたちは緊張した本番が終わると、晴れ晴れとした表情をしていました。



男の子もお化粧をします。



高校生との息もぴったりです。



全部で5種類の踊りを披露しました。